

特集：病院図書室と電子情報

インターネットを利用したサービスの展開

須井 麻由美

1. はじめに

まだまだ初歩の初歩ではありますが、当図書室での、インターネットの身近な利用方法を具体的な体験例を挙げてご報告いたします。インターネット利用の利点がよりわかりやすいように、多少大袈裟になってしまうかもしれませんが、インターネットがなかった場合予想と比較してご覧頂きたいと思います。当図書室でのささやかな体験が、少しでもこれからインターネットを始めようとしている司書の方々の後押しになれば幸いです。

2. 事例報告

その1

利用者より、『過去のある期間に、京都新聞に掲載された〇〇に関するデータを拾い集める方法はないだろうか?』との相談を受ける。

(1) インターネットを利用した場合

- ・検索エンジン(図3)で、京都新聞社のホームページを探す。
- ・京都新聞社のホームページ(図4)で過去のデータを検索。
- ・該当期間のデータが見つからない。
- ・具体的な質問内容をメールにし、直接新聞社のホームページに添付されているメールアドレスに送付。
- ・その日のうちに図1の様な回答があった。

図1

三菱京都病院 図書室
須井 麻由美 様

『こんにちは。柳田@京都新聞社です。小社のデータベースは、1989年からの蓄積ですので、それ以前については、マイクロフィルムしかありません。同フィルムは小社の文化センターか、京都府立資料館でご覧いただけますが、お尋ねの記事は、ご自分で該当する年月のフィルムからお探しいただくより方法がありません。コピーは有料になります。』

まずは、御連絡まで。』

京都新聞社
総合メディアセンター
柳田 基

〒604 京都市中京区烏丸通夷川上ル

Tel: 075-241-5277

Fax: 075-212-0676

E-mail: kpdesk@mb.kyoto-np.co.jp

(2) インターネットがなかった場合(予想)

- ・京都新聞社の代表TEL番号を104で聞く。
- ・京都新聞社の代表番号にTEL。
- ・まずはこちらが何者で、どの様な用件かの概要を話し、担当者につないでもらう(通話中であれば、かけ直し、再度名乗り、再度同じ要件を伝える)
- ・担当者につないでもらうまで、待つこと数分・・・。
- ・運良く担当者につながったら、まずは「今よろしいでしょうか?」と担当者の都合を尋ね、再度詳しい用件を伝え、データ入手

すい まゆみ：三菱京都病院図書室

が可能かどうか尋ねる。

(普段お付き合いのない人に問い合わせをする場合、結構気を遣うのではないでしょうか?)

- 担当者から「調べてから再度ご連絡致します」あるいは「しばらくお待ち下さい」という返事をもらい、電話口、あるいは一旦電話を切って待つ。(電話口で、延々と待たされるか、もしかしたらこちらの手の放せないときに、電話がかかってくるかもしれない・・・)
- 該当のデータはないので、「京都新聞社の文化センターか、京都府立資料館でご覧下さい。」との返事を受ける。
- 京都新聞社の文化センターの住所、及び担当者の名前、連絡先などを聞き、メモをする。
- お礼を述べ、TELを終える。

(3) この場合のインターネット利用のメリット

- ①メールにより全く面識のない新聞社と効率良くコミュニケーションが図れた。(担当者に行き着くまでに繰り返し行わなければならないお決まりの挨拶や、用件の伝達が省かれるため)
- ②お互いに、意図しない時に連絡を受けることのわずらわしさから解放された。

その2

利用者より、『××先生へ質問があるので、メールで送れないだろうか?』と、テキストスタイルで保存された質問内容のフロッピー持参での要望を受ける。

(1) インターネットを利用した場合

- インターネットを立ち上げ、メールボックスを開く。依頼者よりテキストスタイルで預かった内容文を本文の記入欄にコピー&ペーストし、××先生のメールアドレスに送信(FAXの様に、通話中ということはないので、確実に送信されている安心感が持

てる)

- 翌日、再度インターネットを立ち上げ、メールボックスをチェックし、図4の回答を受け取る。

図2

```

X-Mailer: Macintosh Eudora Pro Version 2.1.3-J
Content-Type: text/plain; charset="ISO-2022-JP"
Date: Mon, 2 Dec 1996 23:13:07 +0900
To: m-sui@fa2.so-net.or.jp
From: ××@mail.medbank.or.jp
Subject: Re:
At 3:04 PM 96.12.2, --wrote:
> ××先生; 論文等ありがとうございました。
>
> リンパ球ヒスタミン遊離試験(Siraganian)
> の方法で分からない点がありますので教えて下さい。
>
> 1) total cellular histamine concentration
> (C)を測定する際、全血+PIPES
> ACM 0.5 ml に HCl O4 0.5 ml を加えて上澄み
> 取るまでの過程で、被験薬と全血の組合わせ
> (E)の場合と同様に37度で60分間 incubate する
> 必要がありますか。
> すぐに遠沈するだけでいいのでしょうか。

37度でincubateする必要はないと思います。
perchloric acidを被全血に加えると
直ちにすべて破壊されます。加えたのち完全に破壊
されたとわかりますので、その後、遠心をして上澄み
のヒスタミン濃度を測定して下さい。

> 2) (E)はtriplicate すべし でしたが、
> (C)は8本から4検体にするのですか。
> 6本から3検体でよいのでしょうか。

3検体でいいと思います。

私でわかることでしたらいつでもご連絡下さい。
また、結果がでたらお教え下さい。
いい結果がでることを楽しみにしております。

××, M.D. (Department of Anesthesiology~)
Tel: 0××5-44-2××1, ext. 3××7
Fax: 0××5-44-4××8
    
```

(2) インターネットがなかった場合(予想)

- メールは使えないのでFAXで送ることにする。
- 勤務先の病院へ送るため××先生宛のFAX送信状を作成し送信する。(FAXが通話中であれば、再度送信する。)
- 職場へのFAX であるため××先生の手元に渡ったか心配。

- ・届いたFAXが、事務所（Fax 設置場所）から外来あるいは医局宛に届けられる。
- ・外来、あるいは医局で、各先生宛に振り分けられる。
- ・やっと××先生の手元に届く。
- ・FAX の内容を読んだ××先生が、返事を書く。（FAX 送信されてきた書類を再度FAX で送ると画質が悪くなる。そのため図2のような細かい数字データは読みにくい。
- ・FAX を送ってから返事を受け取るまでに、複数の人の手を介するため、返事を受けるのは、インターネットを利用した場合よりかなり遅い。

(3) この場合のインターネット利用のメリット

- ①送られてきたメールを引用しながら書くのですばやく返事が出せる。従って、返事を出す側にとって負担が軽い。
- ②内容が、数字など細かいデータを含む場合、画像として送られてくるFAX の文字よりテキストとして送られてくるメールの文字の方が明らかに読みやすく正確である。
- ③忙しい医師同士の連絡には、送受信の時間を気にしなくて良いメールは都合が良い。
- ④送信相手に直接届くので、時間的ロスが少なく途中で書類が行方不明になったり、内容を他人に見られる心配もない。

3. まとめ

以上の例に挙げたように、インターネットといっても私の場合、現時点では、ほとんどメールの恩恵しか受けていません。しかし、インターネットを利用することによって、利用する以前より、便利になったと感じています。また、メールという機能をきっかけにインターネットの他の優位性を見つけ、今後も今以上にインターネットになじんでいきたいと感じています。

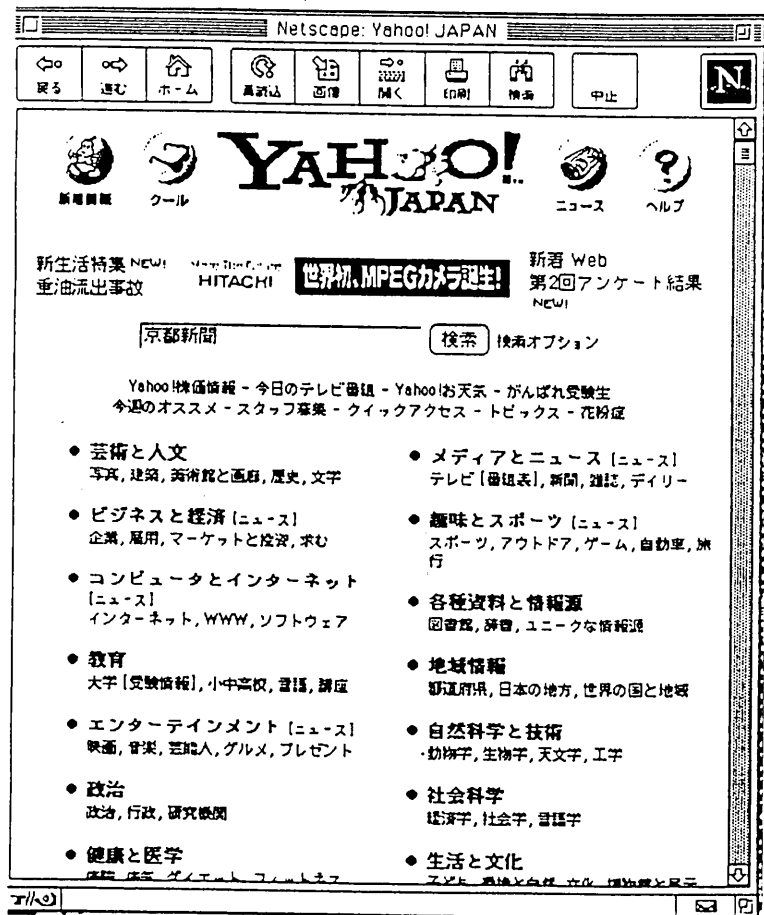
利用することによって、便利であれば、それが今まで触れたことのないものであっても、何かのきっかけを得て、これからもどんどん取り入れていけたらと思います。

インターネットで、メールのやりとりができるようになったり、ホームページで会員のフォーラムの様なものが開ければ、よりいっそう会員間の連絡が密になり、地域による活動参加への制限が取り払えるという意味においては、私たち近畿病院図書室協議会の司書にとって、インターネットはこれから大きな力を発揮できる道具になってくれると思います。

今ではどの病院にもFAX があるのが当たり前であるように、いつかインターネットも当たり前になり、インターネット上で気軽に情報交換ができる日が来ることを楽しみにしています。

図3. 検索エンジンで、検索する。

『京都新聞』というキーワードを入力



『京都新聞』というキーワードで、13件見つかる
そのうち1件目にアクセスすると、京都新聞のホームページにつながった

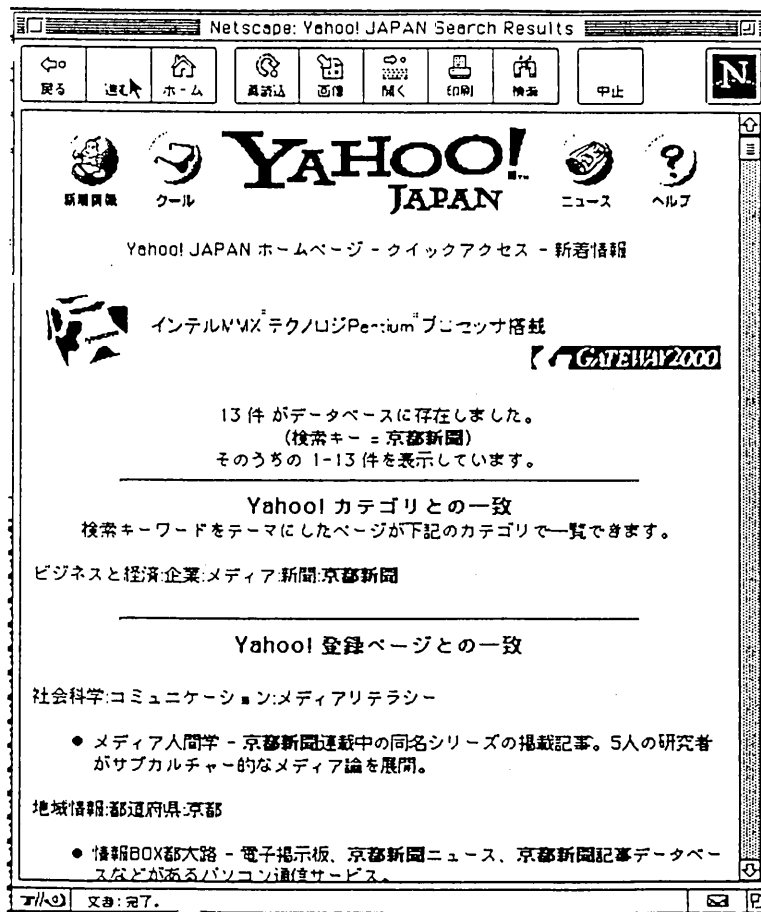
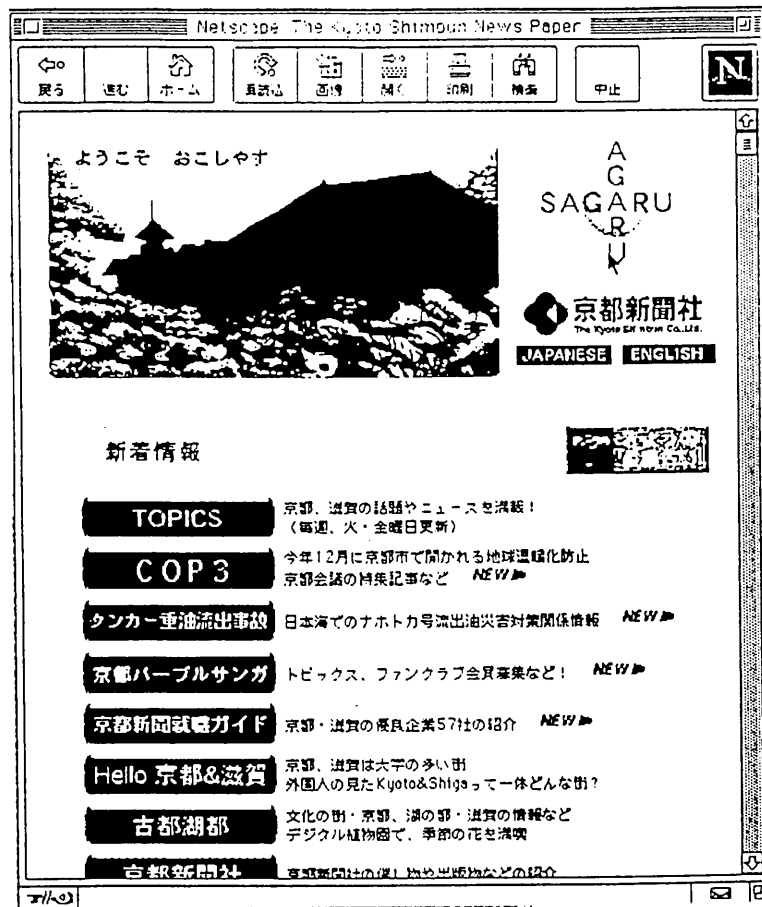


図4. 京都新聞社のホームページ。



ホームページに添付されているメールアドレス

